

CAMPUS NOW

国立高専機構 新居浜高専 校報

No.223 2018. 4



➤ 奇術部がプラネットグループの学童保育所を訪問しました。

本校奇術部が、12月25日(月)に新居浜市立中萩小学校前にあるプラネットグループの学童保育所を訪問しました。こちらの施設への訪問は今回が初めてで、奇術部としては2017年最後の学外活動となりましたが、歴代部長経験者3名、お手玉遊び市民大会優勝者2名を含む計6名の学生が参加しました。

電子制御工学科2年の廣木陸也さんは、「元気いっぱいの子どもたちから、参加した部員全員、クリスマスプレゼントとして、笑顔と新年をスタートダッシュするパワーをもらいました。」と話していました。

参加メンバー(6名)

生物応用化学科5年	石川夢子	電気情報工学科4年	森岡真生
機械工学科3年	山田晃陽	電気情報工学科3年	鈴木祐大
電子制御工学科3年	羽藤有紀	電子制御工学科2年	廣木陸也

(引率:電気情報工学科 香川福有)



➤ 環境放射線に関するイベントを実施しました。



12月26日(火)、本校において、「環境放射線を測ろう」と題したイベントを開催しました。このイベントは、身の回りに存在する弱い放射線について知ってもらうことで、身近な自然環境への理解を深めてもらうことを目的として実施したもので、新居浜市内の中学生が参加しました。

最初に、電子制御工学科の白井みゆき准教授が放射線の概要について説明を行い、その後各班に別れて、校内のグラウンドや水面等の様々な場所で放射線の測定を行いました。測定後は結果をもとに気づいたことを発表し、測定する場所や環境によって、測定値に僅かな差が出ることにたいへん興味を持っている様子でした。

終了後のアンケートでは、「測定機を使って自分で測ったので、周りにあるものを確認しながら測定できて楽しかったです」「高専内すべてを周りきれなかったのもう少し時間が欲しかったです」といった意見も寄せられました。本イベントを担当した数理科の長尾桂子講師は「周辺にあるものによって環境放射線が変化することを、参加者に理解してもらえたと思います。今後は別子銅山など、平地以外の環境についても調べていく予定です」と今後の抱負を述べました。

➤ 平成30年校長年頭あいさつ

1月4日(木)、迫原校長が年頭のあいさつを行いました。あいさつに引き続き、「昨年の振り返りと今年の展望・課題」の資料をもとに、教育、学生支援、広報、研究、地域連携、学校整備等について話があり、「今後予想される大きな試練に対応するために、学校運営の在り方等の教育体制整備が不可欠となります。これを乗り切るためには、教職員が一致協力することが非常に重要です。皆様のご協力をお願いいたします。」と、教職員を前に力強く述べました。

新年にあたり、教職員一同、気持ちを新たに取組んでまいります。



➤ 全国高専学習到達度試験、TOEIC試験及び四国高専共通試験を実施しました。

1月11日(木)、本科3年生を対象に全国高専学習到達度試験(物理・数学)及びTOEIC-Bridgeを実施し、204名が受験しました。

全国高専学習到達度試験は、学生自らが自己の学習到達度を把握することを通じて学習意欲を喚起し、主体的な学習姿勢の形成を促すことを目的として実施しているものです。

また、同日は本科2年生を対象とした四国高専共通試験(化学)を実施し、210名が受験しました。学生達は、定期テストとは違った雰囲気の中で、真剣に試験に臨んでいました。

➤ 外国人留学生110番通報訓練を実施しました。

1月12日(金)、110番の利用方法や事件・事故を目撃した際の対応方法について学ぶ新居浜警察署主催の110番通報訓練が本校で開催され、留学生5名、チューター1名が参加しました。



始めに講師から、110番通報の流れや方法について、ホワイトボードに示しながら分かりやすく丁寧に説明していただきました。次に、携帯電話を使った通報訓練を実施し、留学生は、それぞれ事件や事故を想定して、日本語でその状況や自分の名前、住所など答えていました。その中で特に、『記憶した情報は

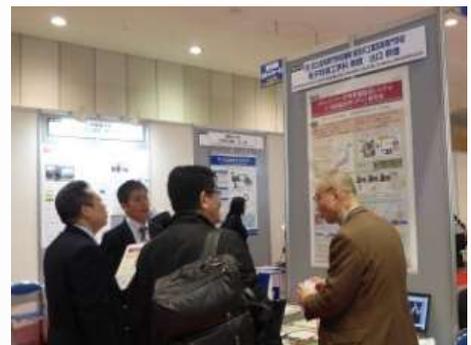
先に伝える!』など、通報についての“コツ”を学びました。

今回の訓練により、事件や事故が目の前で起こった時にも常に冷静に対応することの大切さについて学ぶことができました。

➤ 第2回 RoboDEXに出展しました。

1月17日(水)~1月19日(金)の間、東京ビッグサイトにおいて開催された第2回 RoboDEX(Robot Development and Application Expo: ロボット開発・活用展)に、第4ブロックロボット研究会を代表して本校電子制御工学科の 出口 幹雄 教授が出展しました。

出展のタイトルは「ストレスフリー生体情報監視システムと中四国地区高専ロボット研究会」で、約2年前に発足した第4ブロック(中国・四国地区)国立高専間のロボット研究会の活動の一環として取り組んでいる内容についてブース展示及びプレゼンテーションを行いました。「カメラ画像処理による高齢者見守りシステム」(本校電気情報工学科 平野雅嗣教授)、「付け爪型ウェアラブルセンサ」(香川高専機械電子工学科 石井耕平講師)、



「実効誘電率変化検知による非侵襲生体計測」(出口幹雄教授)の3つの研究及びこれらを統合したストレスフリー生体情報監視システムの構想について紹介しました。

この展示会は、第47回ネプコンジャパン、第10回オートモチブワールド、第4回ウェアラブルEXPO、第2回スマート工場 EXPO との同時開催で、東京ビッグサイトの東ホール・西ホールの全てを使って催された大規模な展示会でした。3日間で来場者数が全体で11万4千人を越え、大変な賑わいでした。

➤ **平成30年度推薦による入学者選抜検査の合格発表を行いました。**

1月24日(水)午前10時、平成30年度推薦による入学者選抜検査の合格発表を行いました。

小雪が舞う中、受検番号が掲示板に張り出されると、集まっていた受検者の保護者や中学校の先生が掲示板の前に駆け寄り、番号を確認していました。



➤ **校長と女性教職員との懇談会を開催しました。**

1月24日(水)、校長と女性教職員との懇談会を開催しました。



本校では、女性教職員からの意見を参考に、働きやすい職場づくり、教育研究環境の整備を行うことを目的に平成24年度から校長との懇談会を開催しており、今回で6度目となります。

懇談会には女性教職員14名が参加し、前年同様、女性教職員休憩室で開催しました。橋本男女共同参画推進室長の司会進行のもと、職場環境についての要望等について意見交換をしました。

今回の懇談会で出された意見を参考に、学生、教職員が過ごしやすい学校を目指します。また、本校は平成28年10月に新居浜市女性活躍等推進事業所として認証されており、今後も女性が活躍する場を積極的に設けていきたいと考えております。

➤ **学生大会及びクラスマッチを開催しました。**

1月24日(水)、学生会主催の学生大会を第1体育館で開催し、来年度の学生生活動運営の要となる次期学生会長が決定しました。

即日開票の結果、生物応用化学科4年 渡邊 大空(そら)さんが平成30年度の学生会長に選ばれました。新しい会長のもと、より良い新居浜高専を目指して力を合わせることにあります。



その後、クラスマッチを開催し、バスケットボール、バレーボール、室内ゲームでUNOを実施し、チームプレーを通してクラス間の絆を深め、他学年とも親睦を図ることができました。

優勝	バスケットボール(男子)	3年	環境材料工学科
	バレーボール(女子) ※リーグ戦のため4チーム	1年	1組
		1年	3組
		2年	4組
		3年	機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科 混合チーム
UNO(室内ゲーム)	3年	電子制御工学科	

➤ **第13回運営諮問会議を開催しました。**

2月13日(火)、地域のニーズ及び時代の変化に即応し、効率的かつ効果的な学校運営を行うため、石川勝行新居浜市長をはじめとする外部有識者の委員7名の出席を得て、第13回新居浜工業高等専門学校運営諮問会議を開催しました。



議長に選出された八尋委員(愛媛大学工学部長)の進行のもと、本校側から、学校概要、教育に関する事項、学生支援、研究及び地域連携活動等について、各担当から説明を行い、委員からは、「“KOSEN(高専)4.0” イニシアティブ」事業を始めとした社会実装教育の取組及び今後の産官学連携を中心とした東予地域との関わり等についてご意見やご要望がありました。

今回寄せられた各委員からのご意見等を参考に、本校学校運営の改善につなげていくことにしています。

➤ **教職員メンタルヘルス講演会を開催しました。**

2月20日(火)、順風会天山病院・産業保健支援室 労働衛生コンサルタントの 櫃本 真幸 氏をお迎えし、「職場のメンタルヘルスケア～ストレスチェックを活用した職場づくり～やりたいことは上手いく」と題して、教職員を対象とした講演会を開催しました。

この講演会は、職場のメンタルヘルスケアについて理解を深め、より良好な職場環境を形成することを目的としたものです。

講演会では、うつ病の症状と職場でのケアについて、また、ストレスとの向き合い方やストレスチェックの活用などについてご説明いただき、今後の職場のメンタルヘルスケアについて考える貴重な機会となりました。



➤ **平成30年度学力による入学者選抜検査の合格発表を行いました。**



2月22日(木)、平成30年度学力による入学者選抜検査の合格発表を行いました。

午前10時に受検番号が張り出されると、発表を待っていた受検者の保護者や中学校の先生が掲示板の前に駆け寄り、番号を確認していました。

➤ **電気情報工学科5年の学生が、第一級陸上特殊無線技士長期型養成課程を修了しました。**

2月22日(木)、電気情報工学科5年の通信機器の授業において、無線従事者資格の第一級陸上特殊無線技士・長期型養成課程に関わる全ての授業が終了し、同学科5年41名が、無線従事者資格の第一級陸上特殊無線技士の免許申請書の作成を行いました。

本年度は、電気情報工学科5年のうち、クラスの全員にあたる41名が上記の長期型養成課程を修了し、免許申請を行います。本資格は、全国51国立高専に数多くある電気・電子・情報系学科でも、7高専9学科にしか認定のない(平成29年10月登録件数)貴重な資格です。また、本資格は、業務独占資格と呼ばれる関連業務を行うためには必携の免許であり、一度取得すれば生涯にわたって使用でき、書き換え不要の価値のある免許です。情報通信系の会社や電力系の会社で重宝されています



電気情報工学科では、平成19年度に認定学科となり、平成24年度には、全学生が取得できるようにカリキュラムの変更を行い、これまでに、300名を超える取得者を輩出しました。

みなさんの卒業後の活躍を期待しています。

➤ **新居浜市社会福祉協議会に寄付をしました。**



2月22日(木)、新居浜ロータリークラブの例会において、本年度の国領祭でのローターアクト部の利益及び電気情報工学科3年生の出店による利益の全てを、新居浜市社会福祉協議会のまごころ銀行に寄付いたしました。例会での贈呈式には、ローターアクト部で生物応用化学科4年の植松大翔さんが出席し、電気情報工学科3年生の寄付金についても代理で贈呈しました。

その後、ロータリークラブの会員の皆様に、これまでのローターアクト部への支援における感謝を述べ、活動報告を行いました。

➤ **地元企業との交流会を開催しました。**

2月22日(木)、本校技術振興協力会(愛テクフォーラム)の法人会員である企業9社をお招きし、「地元企業との交流会」と題した学生との交流会を開催しました。この交流会は初の試みで、学生に地元の元気な企業を知ってもらうことを目的に開催したものです。

交流会は、講義室において各企業が順番にプレゼンを行い、同時に別室では各企業の個別ブースを設け、企業担当者と学生との自由懇談を行いました。

参加した学生からは、「地元にも様々な企業があり、地元での就職もいいなと思った。」「地元のすばらしい企業を知れて、良い機会だった。」「大企業の話はよく耳にするが、自分の知らない地元の企業の話が聞けてよかった。」などの感想が寄せられ、学生にとって大変有意義な機会となりました。



参加した企業は、「来年も是非参加させていただきます。」等、次回開催を望む声が複数寄せられました。今後も、学生が地元企業の情報を得る特別な企画として発展させていきたいと考えております。

➤ **本校学生が特別支援学校川西分校に作品を持参しました。**

1月22日(月)、本校機械工学科2年の学生16名が、デザイン工学演習の授業において「ワンクリックで音が鳴り、楽しめる教材」をテーマとして製作した作品を、新居浜特別支援学校川西分校に持参し、小学部の児童たちとふれあい活動を行いました。



この試みは前年度から試行的に実施しており、学生がアイデアを出し合った作品を実際に使用してもらい、一つ一つの作品に対する児童及び教員の皆様の評価を受けながら、親睦を深めました。

この活動の目的としては、特別支援学校の児童が本校の学生と触れ合い、活動を共にする中で互いの理解を深めること、また、児童が作成した教材を使って遊ぶ様子を本校学生に見てもらうことで、ものをつくるために必要な事柄を学んでもらうことです。

同校の教員の方々から、「ここにカバーをつけてもらえると、小さい子供でも、より安全になる」などの学生視点では気づかない点をご指摘いただき、また、「今年の作品はクオリティが高いですね」とのお褒めの言葉も頂戴しました。これらのアドバイスをもとに改善を重ね、2月22日(木)に手直した作品を持参し、使用いただいております。

本事業は平成30年度から、医療福祉現場での課題解決を行うことができる「アシスティブテクノロジー技術者育成特別課程」において開講する基礎となります。

様々な個性を知りたいへん良い機会となり、今後とも連携を続けていく予定です。

➤ **奇術部が新居浜市教育委員会から善行賞を受賞しました。**

2月23日(金)、本校奇術部が新居浜市教育委員会から善行賞を受賞し、迫原校長に報告をしました。

奇術部は日頃から、高齢者福祉施設、放課後児童クラブなどを訪問し、地域のイベントにも積極的に参加してジャグリングの技や手品等を披露して交流を深めています。受賞は、団体として奇術部が表彰された他、個人としても部員5名が表彰され、奇術部では通算15名が表彰されています。

受賞内容

団体表彰: 奇術部

個人表彰:

- 生物応用化学科5年 西岡 義史
- 機械工学科3年 山田 晃陽
- 電子制御工学科3年 兵藤 克樹
- 環境材料工学科3年 渡邊 花音
- 生物応用化学科2年 刈谷 千夏



部長の電気情報工学科3年 鈴木 祐大さんは「これからも地域の人々に喜んでもらえるように精一杯頑張ります。」と今後の抱負を述べました。

➤ **廃棄自転車を利用した水力発電装置を設置しました。**

2月23日(金)、本校環境材料工学科4年生が『材料創成デザイン演習』の授業において、廃棄自転車を再生利用した水力発電装置の製作を行い、庄内土地改良区のご協力のもと、新居浜市庄内町の水路に設置しました。この取り組みは一昨年からの実施しており、今回が3度目の試みとなります。



この授業では、学生自らが創意工夫して問題解決に取り組むことで、創造力を育成することを目的としています。また、この取り組みは地域貢献の一環として、水路の自然エネルギーを利用してLEDライトを点灯し、小中学生の通学路である道路を明るく照らすことで事件・事故を防止し、安全を確保することを目標としています。今年度は特に装置の耐久性向上をテーマとし、メンテナンスフリーで長期間、LEDライトを点灯させられる水力発電装置の設計・製作を行いました。

当日は、9つのグループがそれぞれプレゼンテーションを行った後、実際に装置を水路へ設置しました。学生達が創意工夫を重ね製作した水力発電装置は力強く回転し、無事LEDを点灯させることに成功しました。この装置は3月9日まで設置し、発電能力・耐久性などを試験する予定です。

なお、この取り組みは、一部の機関において報道されています。

➤ 電子制御工学科の学生がデジタル技術検定の優秀賞を受賞しました。

2017年11月に、本校を準会場として「平成29年度デジタル技術検定」が実施され、2級制御部門を受検した電子制御工学科4年の佐藤 達輝さんと3級を受検した同学科2年の松本 楓真さんが、試験成績が優秀であったことから、優秀賞を受賞しました。本校からは同学科の学生が受検し、2級制御部門に9名、3級に7名合格しています。なお、3級に関しては受検者全員が合格しています。



公益財団法人国際文化カレッジが主催するこの検定は、電子制御に必要なデジタル技術に関する検定試験で、情報処理の基本的な部分から制御までを幅広く問われます。電子制御工学科では、専門科目で学んだ内容から多く出題されることから、日頃の勉強の成果を試す機会として受検を勧めています。今年度は後期中間試験直前の日程でしたが、このような成績を収めたことは学生の努力の結果であり、また、本校における教育水準の高さを証明しています。今後もさらに受賞者・合格者を増やしていけるよう邁進してまいります。

➤ 新居浜市役所ロビー展へ出展しました。

2月26日(月)から3月2日(金)の期間、新居浜市役所1階のロビーにおいて、本校の学校紹介パネル等を展示しました。このロビー展への出展は毎年実施しており、本年度は、教員7名の研究紹介及びグループ研究活動の紹介パネル等を展示しました。



展示期間中は、足を止めて熱心に見入っている市民の皆様の姿も見られました。また、準備していた本校の紹介冊子を追加で配布する程、多くの方々に興味を持っていただきました。

時期は未定ではありますが、次年度もこのロビー展に出展させていただきたいと考えております。



➤ **学生主体のプログラミング出前講座を実施しました。**

2月27日(火)、本校電気情報工学科の学生6名が講師となり、新居浜市立金子小学校において、プログラミングの出前講座を行いました。この出前講座は「はじめてのプログラミング」と題し、プログラミングの基礎を養うもので、同校の5年生3クラスの児童87名が参加しました。また、本校学生6名のうち、4年生の3名が交替で講師役となり、他2名と1年生3名が児童のサポート役として授業を進行しました。

講座は、児童3人組のグループワーク方式で行い、タブレットのアプリを利用して、「指定した通りにコンピュータ内のキャラが動く」というプログラミングの基礎のもとパズル形式の問題に取り組み、アルゴリズムの導出やプログラミングの多様性を学んでもらいました。

短い時間ではありましたが、参加した児童は楽しみながら、積極的に取り組んでいる様子でした。



➤ **海外短期英語研修旅行を実施しました。**

3月4日(日)～14日(水)の間、学術交流協定を締結しているオーストラリア・サザンクロス大学において海外短期英語研修旅行を実施しました。本研修には本校及び香川高専高松キャンパス合わせて17名が参加しました。



サザンクロス大学は、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州リズモアにあり、観光地で有名なゴールドコーストの近くに位置しています。サザンクロス大学では、英語の授業に加え、オーストラリアの歴史や生活、日本とオーストラリアの関係などについて学びました。

滞在中は、学生それぞれが現地のホストファミリー宅にホームステイをし、学習した英語表現を生かして、ホストファミリーと

の交流を楽しみました。

参加した学生たちにとっては、異文化を知り英語の有用性を感じる貴重な体験となりました。

➤ **奇術部がデイサービスセンターを訪問しました。**

3月6日(火)、本校奇術部が新居浜市内にあるデイサービスセンター ピッパラを訪問しました。当施設への訪問は昨年9月2日(土)以来となります。施設の方々も楽しみにしていた様子で、精一杯の演技を披露することができました。最後は、高齢者の方々と握手をして終わりました。

部員で環境材料工学科3年の 松尾 真菜さんは高齢者福祉施設への訪問が初となり、「部員のみんなが積極的に参加している理由が分かったような気がします。私も、今後このような機会があれば積極的に参加していきたいです。」と、今後の抱負を述べました。



参加メンバー(4名参加)

電気情報工学科4年 森岡 真生

機械工学科3年

山田 晃陽

電気情報工学科3年 鈴木 祐大

環境材料工学科3年

松尾 真菜

(引率:電気情報工学科 香川 福有)

➤ **ESD対応出前授業「つくる責任、つかう責任」を実施しました。**

3月6日(火)、新居浜市立南中学校において、新居浜高専ESD対応出前授業「つくる責任、つかう責任」を実施しました。今回は、中学1年生の全4クラスを対象として、50分間の通常授業を4クラス分連続して実施し、合計131名の生徒が受講しました。また、本校生物応用化学科4年の学生3名が講師を務め、授業を進行しました。



授業は生徒6~7人組のグループワークを基本として、クイズ形式を取り入れながら実際のフェアトレード商品に触って特徴を話し合い、フェアトレードについて考える機会を設けました。また、授業の終わりには、受講した生徒が質問や感想を発表し、共有す

ることで深い理解を促し、行動へと結びつけてもらうこととしました。

受講した生徒からは、「正当な価格で買われていない商品の労働者の賃金の低さに驚きました」「発表や話し合いが多く分かりやすかった」などの感想がありました。また、講師を務めた本校学生は、「世界でなされている取り組みや身近なものが環境破壊につながっていることを学ぶことができた」、「中学生に分かりやすく伝える方法が身についた」と自己評価しており、ESD出前授業を通して知識や能力を高めるたいへん貴重な機会となりました。

※ESD(Education for Sustainable Development)・・・持続可能な開発教育

➤ **次世代型技術者(人財)育成プロジェクト外部評価委員会を開催しました。**

3月9日(金)、“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブで採択された「社会実装教育を基盤とする地域の次世代型技術者(人財)の育成」事業を適切に実行するため、外部有識者の委員5名の出席を得て、次世代型技術者(人財)育成プロジェクト外部評価委員会を開催しました。

議長である八尋委員(愛媛大学工学部長)の進行のもと、本校側から、事業の全体概要、次世代型プラント技術者育成特別課程、アシスティブテクノロジー技術者育成特別課程、ESD対応学生主体型出前授業の進捗状況と今後の予定について各担当から説明を行い、委員からは、特別課程の認定の権威付けや基礎教育と実践教育の連携等についてご意見やご要望がありました。



今回寄せられた各委員からのご意見等を参考に、“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ事業の進展につなげていくことにしています。

➤ **第2回 新居浜高専-愛媛大学工学部・研究交流会を開催しました。**



3月9日(金)、本校において『第2回 新居浜高専-愛媛大学工学部・研究交流会』を開催しました。この研究交流会は、両機関の教育研究連携協力を推進させるため、マッチングのしやすい研究分野の教員同士が情報交換できる場として開催しています。第2回目となる今回は、2会場で開催し、愛媛大学工学部側から情報提供があり、両機関の教員が約2時間に渡り活発な意見交換を行いました。今後、共同での研究実施、研究資金獲得、論文

公表につながることを期待されます。

「教材用ペットボトル・ハイブリッド・ロケットシステムの開発」

情報提供者 愛媛大学 大学院理工学研究科 中原 真也 教授

「温和なりグニン変換に向けた触媒研究」

情報提供者 愛媛大学 大学院理工学研究科 太田 英俊 助教

また、情報提供いただいた愛媛大学の2名の先生には、地域の皆様へ研究シーズ情報を提供する「第59回新居浜高専工業技術懇談会」において、本校教員と共に研究シーズ発表も行っていただきました。

➤ 第59回新居浜高専工業技術懇談会を開催しました。

3月9日(金)、本校第一会議室において『第59回新居浜高専工業技術懇談会』を開催しました。今回は、愛媛大学から3名、本校教員1名がこれまでの研究成果や今後の展望について、発表を行いました。

○「温和なりグニン変換に向けた触媒研究」

愛媛大学 大学院理工学研究科 太田 英俊 助教

○「木質バイオマスの二段階燃焼法の開発」

元愛媛大学工学部 阿部 文明 技術職員

○「教材用ハイブリッドロケットシステムの開発」

愛媛大学 大学院理工学研究科 中原 真也 教授

○「衛星機能モデル(CanSat)の製作」

新居浜高専 電気情報工学科 若林 誠 講師



会場は約50名の参加者で賑わいを見せ、産学官の活発な意見交換の場となりました。また、本懇談会の開催に先立ち、「新居浜高専—愛媛大学工学部・研究交流会」を実施し、愛媛大学から情報提供された研究内容について、意見交換を行いました。

➤ にいはま6：30倶楽部を開催しました。



3月9日(金)、本校尚友会館において異業種交流会『にいはま6:30倶楽部』を開催しました。この交流会は、「産学官交流の場」を目的として、えひめ東予産業創造センター、新居浜市、新居浜商工会議所、本校の4機関の主催で年に2回開催しているものです。

会場は、100名を超える参加者で大変な賑わいを見せ、業種を超えた活発な意見交換と交流の場となりました。

➤ 学生が第23回溶接学会四国支部講演大会において優秀発表賞を受賞しました。

3月9日(金)、新居浜市内において、一般社団法人溶接学会四国支部が主催する第23回溶接学会四国支部講演大会が開催され、本校環境材料工学科5年 清家 妃奈乃さんが「可視化手法による金属材料中の水素挙動解析」というテーマの研究発表を行い、優秀発表賞を受賞しました。



燃料電池車に代表される水素エネルギー利用の拡大の妨げとなっている要因の一つに、水素脆化という問題があります。本研究では、水素脆化機構解明に向けた基礎研究として、材料表面から放出される水素を金属組織と対応させて観察する手法を検討しました。

大会後には本校からの出席者で記念撮影を行いました。今後の皆さんの活躍を大いに期待しております。

題目：可視化手法による金属材料中の水素挙動解析
鉄本果歩、清家妃奈乃、真中俊明、日野孝紀

➤ **学生が平成29年度パテントコンテストで優秀賞（特許出願支援対象）に選ばれました。**

平成14年から毎年開催されているパテントコンテスト(主催：文部科学省、特許庁、日本弁理士会、独立行政法人工業所有権情報・研修館)において、本校生物応用化学科4年の馬越千晶さんが発明した「ダイエットエプロン」が優秀賞(特許出願支援対象)に選ばれ、3月12日(月)にJPタワーホール&カンファレンスにおいて表彰式が行われました。今回の受賞により、本校からの優秀賞は10件目となります。また、翌13日に実施された特許庁見学にも参加してきました。



このコンテストは、日本の次世代を担う高校生、高専生、大学生等の知的財産マインドを育てるとともに、知的財産権制度の理解を促進することを目的としたもので、生徒、学生等が自ら考え出した発明の中から優秀な作品を表彰しており、本年度は応募総数525件から29件が選出されました。また、馬越さんは、すでに弁理士の支援を受けて3月9日に特許出願を済ませています。

本校では日頃から知財教育にも力を入れ、多くの学生がパテントコンテスト、知的財産管理技能検定、各種コンテストへのチャレンジを積極的に行っています。

➤ **第52回卒業式・第25回専攻科修了式を挙行了しました。**

3月16日(金)、新居浜市市民文化センター大ホールで第52回卒業式・第25回専攻科修了式を挙行し、本科卒業生198名(インドネシア・ラオスからの留学生2名含む)、専攻科修了生20名が本校を巣立ちました。



迫原校長は式辞で、「創造性を持った実践的技術者へと成長し、これからの技術革新を牽引してくれることを期待しています。」と述べ、卒業生・修了生の門出を祝うとともに、社会へ羽ばたく学生を激励しました。また、新居浜市長の祝辞を新居浜市副市長 寺田 政則様からいただいたほか、来賓の方々から祝辞が贈られました。

式終了後に、生物応用化学専攻修了生の6名はJABEE認定修了証授与式を実施し、技術者としての一步を踏み出しました。

➤ **第12回電気新聞(エネルギー教育賞)高校・高専の部で優秀賞を受賞しました。**

一般社団法人日本電気協会(電気新聞)が主催するエネルギー教育賞において、第12回目となる今回、本校の継続的なエネルギー教育が評価され、優秀賞を受賞しました。また、3月20日(火)に同協会四国支局の佐藤支局長が来校し、賞状及び目録を授与いただきました。

エネルギー教育賞は、エネルギー教育の実践に取り組む学校現場を応援する顕彰制度で、学習の目的・内容、創意工夫のあり方、子ども達の変化の度合い、活動の継続性、地域等との連携



性などを加味して審査されます。本校が受賞した背景としては、特に、学生主体型のエネルギー・環境関連の出前授業が高く評価されたことが挙げられます。さらには、この優秀賞とは別に、環境材料工学科の教員の取組みも高く評価され、奨励賞を受賞しております。

なお、授与式には迫原校長及び生物応用化学科の西井 靖博 准教授が出席しました。今後も地域との連携により学生主体型の出前授業を継続して実施していくことで学生のコミュニケーション能力や自己学習力を養い、さらなる発展を遂げていきたいと考えております。

➤ **学生が『新居浜市市制施行80周年記念「あかがね産業博」ものづくりスゴ技対決』に出場しました。**

3月25日(日)、あかがねミュージアムにおいて開催された『新居浜市市制施行80周年記念「あかがね産業博」ものづくりスゴ技対決』に、環境材料工学科の平澤 英之 准教授、吉良 真 技術専門職員、志賀 信哉 教授、松英 達也 教授の指導のもと、同学科3年生の学生チームが出場しました

このイベントは、出場者が独自の技術・アイデアでものづくりを行いその成果を競うもので、新居浜市内のものづくり企業各社と本校環境材料工学科学生チームが参加しました。今回実施されたスゴ技対決のテーマは、「空き缶コプター滞空対決」と「リングング綱引き対決」で、本校からは5チームが参加しました。



今回の対決では、研磨や機械加工を専門とする地域企業に対し、本校環境材料工学科3年生チームも大健闘を果たし、見事企業に勝利するチームもありました。リングング対決で勝利した 池内 愛佳さん、島崎 楓乃さんペアは、「装置や時間などの制約がある中で、アイデアを出しあいものづくりをすることの楽しさを実感できました。今後もよりいっそう専門知識を学び、活用できる技術者を目指したいと思います。」と感想を述べました。

➤ **平成30年度入学式を挙行了しました。**

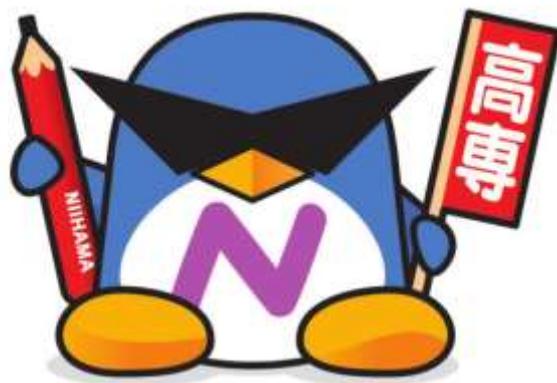
平成30年4月4日(水)、新居浜市市民文化センターにおいて平成30年度入学式を挙行し、本科212名(ラオス人民民主共和国からの留学生1名を含む)、専攻科30名が、本校に入学しました。

入学生を代表して本科生物応用化学科の佐藤寧々さんと、専攻科生産工学専攻の岸田里保さんが、入学にあたっての決意を宣誓しました。つづいて、迫原校長が式辞で、「皆さんにチャレンジの心意気があれば無限の可能性が 있습니다。勉学以外にも様々な可能性に果敢にチャレンジしてください。」と激励の言葉を贈り、入学生は目を輝かせながら聞き入っていました。

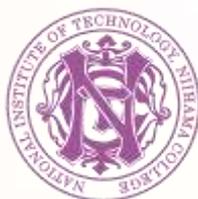


新居浜市長 石川勝行様、本校同窓会燧会会長 山根和男様をはじめとしたご来賓及び保護者の皆様等、多くの方々からの温かい励ましの中、入学生は高専生活への期待を胸に、新たな一歩を踏み出しました。





技術で羽ばたけ
世界へ未来へ
～新居浜高専～



独立行政法人国立高等専門学校機構

新居浜工業高等専門学校

National Institute of Technology, Niihama College

〒792-8580 愛媛県新居浜市八雲町7番1号
TEL (0897)37-7700 FAX (0897)37-7842